



大阪ガス

ガス瞬間湯沸器

取扱説明書

	リモコンタイプ	本体操作タイプ
FF型	33-555	33-575
FF-W型	33-556	33-576

保証書付

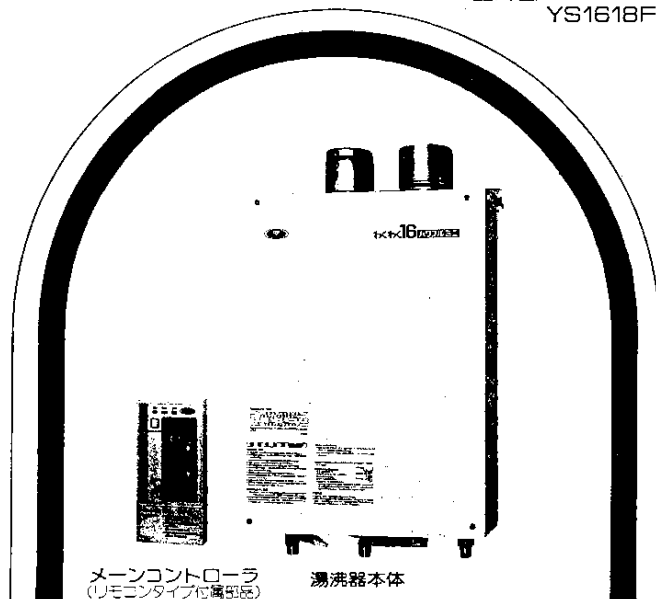
型式名/YS1616F (33-555-75型)
YS1618F (33-556-76型)

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	〒541 大阪市中央区平野町4-1-2	☎大 阪06 (202) 2221
南支社	〒557 大阪市西成区玉出東2-9-41	☎大 阪06 (652) 0001
北支社	〒532 大阪市淀川区十三本町3-6-35	☎大 阪06 (301) 1251
堺支社	〒590 堺市住吉南町2-2-19	☎堺 0722(38) 1131
北摂支社	〒569 高槻市藤の里町39-6	☎高 槻0725(71) 0361
阪神支社	〒662 西宮市和上町4-11	☎西 宮0798(28) 3101
東部支社	〒578 東大阪市稲葉2-3-17	☎河 原0729(62) 1131
京阪支社	〒673 枚方市西田宮町16-17	☎枚 方0720(41) 1251
神戸支社	〒650 神戸市中央区相生町5-13-10	☎神 戸078(578) 5231
京都支社	〒604 京都市中央区烏丸御池地蔵堂町35B	☎京 都075(231) 8151
奈良支社	〒631 奈良市学園北2-4-1	☎奈 良0742(44) 1111
和歌山支社	〒640 和歌山市本町1-5	☎和 歌山0734(31) 2481
姫路支社	〒670 姫路市神屋町4-8	☎姫 路0792(85) 2221
東播支社	〒675 加古川市加古川安楽堂29-1	☎加 古川0794(21) 1801
豊岡支社	〒668 豊岡市三坂町6-57	☎豊 岡0796(23) 2221
河津支社	〒525 堺市通分町字荒尾680-1	☎堺 0775(62) 5311
彦根支社	〒522 彦根市大栗町12-11	☎彦 根0749(22) 3131
(長 浜 営業所)	〒526 長浜市南呉原町3-4	☎長 浜0749(62) 7171

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

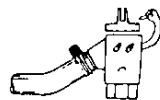
大阪ガス株式会社



メインコントローラ
(リモコンタイプ付属品)

湯沸器本体

ガス器具をご使用になるときのご注意



ガス器具をご使用になったあとは必ずガス元栓も閉める習慣を



ガス器具をご使用中は熱くなります手をふれないでください



ガス器具はガスの種類にあった正しいものを

- ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく操作してください。なお、ご不明な点があればお買い求めのサービスショップ、またはもよりの大阪ガス支社にお問い合わせください。

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガス湯沸器をお求めいただきありがとうございました。

この「取扱説明書」はリモコンタイプと本体操作タイプについて併記してあります。ご使用前によくお読みいただき、正しくお使いの上、別添の保証書とともにいつでもごらんいただける場所に大切に保存しておいてください。

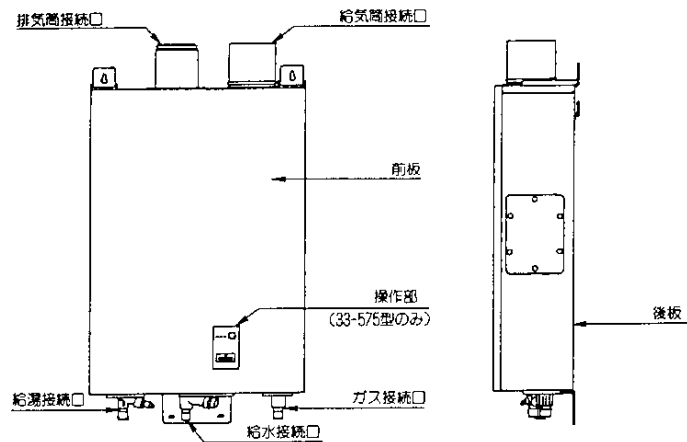
もくじ

●各部の名称	2
●特に注意していただきたいこと	5
●器具の設置・工事	8
●使用手順	8
●断水時・停電時の処置	13
●冬期の凍結による破損予防について	13
●長期間使用しない場合	15
●日常の点検・手入れ	16
●故障・異常の見分け方と処置方法	17
●仕様一覧表	21
●アフターサービス	22
●寸法図	23
●メモ	24
●本製品と快適なくらしのために	26
●特長	26

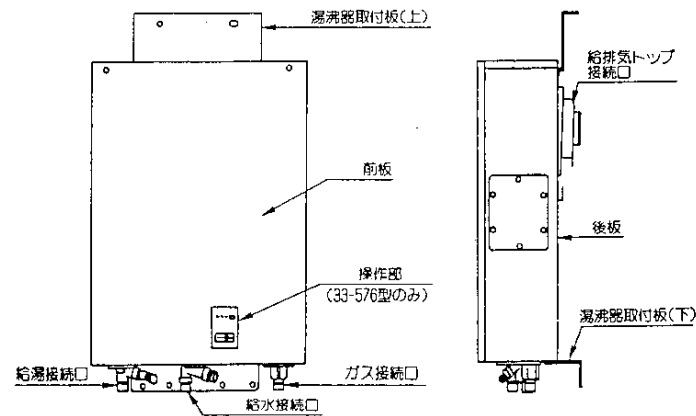
各部の名称

湯沸器本体

FF型(33-555・575型)



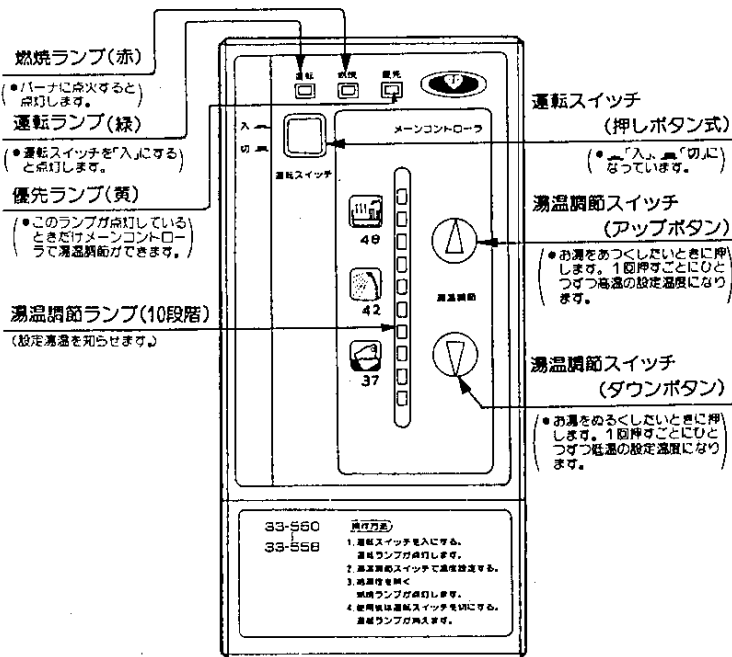
FF-W型(33-556・576型)



各部の名称②

〈リモコンタイプをお使いのとき〉

メインコントローラ (リモコンタイプ付属部品)



ご注意

◎湯沸器に不具合が生じたときには、燃烧ランプが点滅します。点滅状態により不具合の原因を知らせます。

(詳しくは18ページの「異常通知(OKモニター)について」の項をごらんください)

各部の名称③

〈本体操作タイプをお使いのとき〉

本体操作部

燃烧ランプ(赤色)

- バーナに着火すると点灯します。
- 使用中異常が発生すると点滅します。

運転ランプ(緑色)

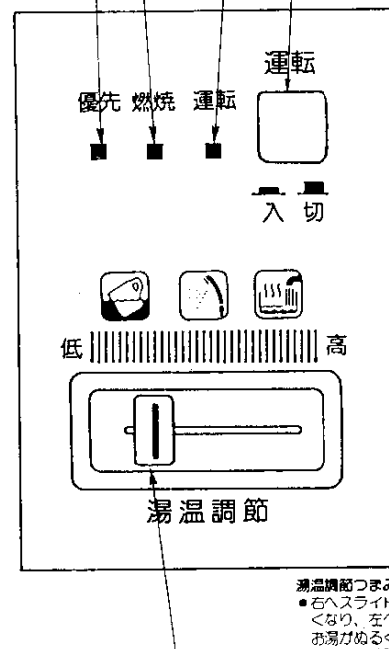
- 運転スイッチを入にすると点灯します。

優先ランプ(黄色)

- 湯温調節の優先権を知らせます。このランプが点灯している場合のみ湯温調節ができます。

運転スイッチ(押しボタン方式)

- 「入」「切」になっています。

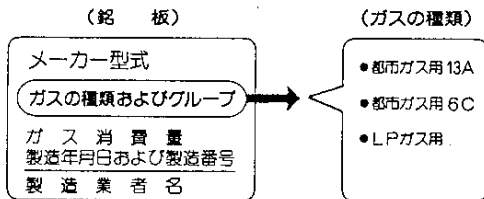


特に注意していただきたいこと

正しく安全にお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

- ①器具(銘板)に表示してあるガスの種類およびガスグループ以外では使用しないでください。
- ②銘板は器具正面右下に貼っています。
- ③ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。



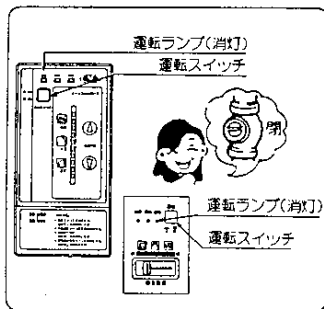
使用電源についてのご注意

- 電源の電圧と周波数をご確認ください。
この器具はAC100V、60ヘルツ用です。お宅の電源の電圧と周波数が一致しているかご確認ください。

使用上の注意

①ガス漏れ予防

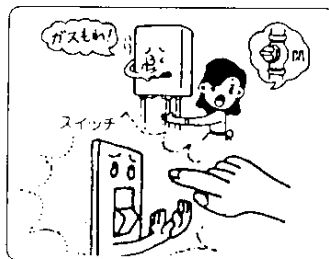
- ①長期間使用しないときは、必ずガス元栓を閉じてください。
器具本体又はメインコントローラの運転スイッチも「切」にしてください。
- ②使用中にガスのおいや、不快なおいがないかときどき確かめてください。



特に注意していただきたいこと②

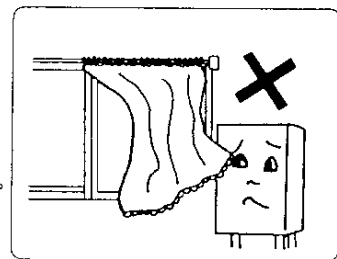
②ガス事故防止

- ①ガス漏れに気付いたときは、ただちに使用を中止して、ガス元栓を閉じ、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス社にご連絡ください。
(絶対に使用しないでください。)
- ②ガスが漏れたときは絶対に火をつけたり、他の電気器具にふれたり(スイッチの「入」「切」や電源プラグの抜き差しなど)しないでください。



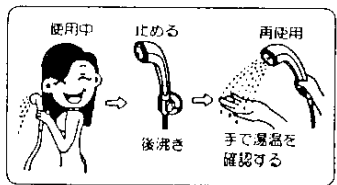
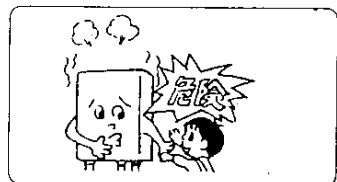
③火災予防

- ①器具の上やそばに燃えやすいもの(カーテン、ダンボール、揮発油など)を絶対においたり、近づけたりしないでください。
- ②給排気トップの上に洗たく物などがかからないようにしてください。



④やけどのご注意

- ①使用中または使用後しばらくは、器具本体の給排気トップは熱くなります。手を触れたりしないでください。
- ②シャワーをご使用直後、再びお使いになるときは、いきなり体や頭にかけず、手で湯温を確かめながらお使いください。(一瞬熱いお湯がでることがありますのでご注意ください。)



特に注意していただきたいこと ③

㊦ 飲料用や調理用にお使いのとき

- 器具を長時間使用しなかつたときは、すぐに飲料用や調理用にご使用にならないで、少し湯(水)を流してからご使用ください。

㊦ 用途について

- 給湯およびシャワー以外の用途には、使用しないでください。

㊦ 市販の補助具について

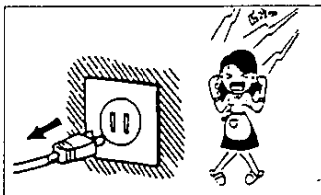
- この器具用の付属部品および別売部品以外は使用しないでください。

㊦ 異常時の処置

- ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不具合が生じたときは、あわてず給湯栓を閉じ、運転スイッチを「切」にし、ガス元栓を閉じて十分な点検をしてください。(詳しくは、17～20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項をごらんください)

落雷のおそれのある時

- ① 雷による一時的な過電流で電子部を損傷することがありますので、雷が発生したときは、すみやかに電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源プラグ・コンセントを用いず、直接配線工事されている場合は、その回路の電源ブレーカのスイッチを切って下さい。



- ② 雷が過ぎかかったことを確かめてから、電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。

凍結についてのご注意

- 厳寒期には湯沸器内の水が凍結し、破損事故が起こることがありますので、器具内の： 氷凍るおそれのあるときは凍結を予防する処置を必ず行ってください。(詳しくは13～15ページの「冬期の凍結による破損予防について」の項にしたがって処置をしてください)

日常の点検・手入れ

- ① 日常の点検・手入れをしてください。(詳しくは16～17ページの「日常の点検・手入れ」の項をごらんください)

特に注意していただきたいこと ④

- ② 器具が故障または破損したと思われるときは使用しないでください。このとき、ご自分で修理なさらずに、必ずお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

器具の設置・工事

- ① 器具の設置・工事は、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社に依頼し、安全な位置に正しく設置してご使用ください。(詳しくは「工事説明書」をごらんください)
- ② この器具は屋内専用ですので屋外には絶対に設置しないでください。

使用手順

使用前の準備と確認

- ① 器具の操作をする前に次のことを行ってください。

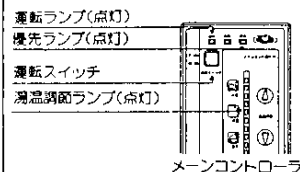
手順 1	手順 2	手順 3	手順 4
<ul style="list-style-type: none"> ● 給水元栓を全開にしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 給湯栓を開いて水が出ることを確認し給湯栓を閉じてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ガス元栓を全開にしてください。

〈ご注意〉 通電後、約5秒間は器具を操作しないでください。

使用方法 (リモコン仕様をお使いのとき)

① 点火・出湯(お湯の出し方)

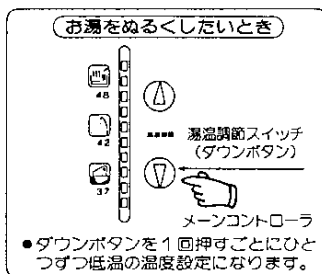
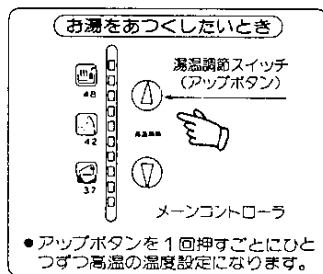
- ① メーンコントローラの運転スイッチを押して「入」にしてください。(メーンコントローラの運転ランプ、優先ランプおよび湯温調節ランプが点灯します)
- ② 給湯栓を開きますと、自動的にバーナに着火し、お湯がでます。(この際、メーンコントローラの燃焼ランプが点灯し、着火が確認できます。)



使用手順②

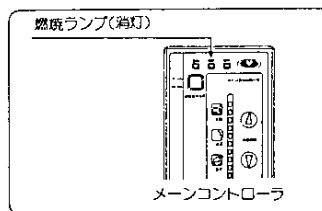
②湯温調節のしかた

- ①メインコントローラの優先ランプ・湯温調節ランプが点灯していることを確かめてください。(点灯していない場合、お使いのシャワーコントローラ(別売部品)の優先スイッチを押して切替えてください。)
- ②メインコントローラの湯温調節スイッチ(アップボタンまたはダウンボタン)を下記の要領で操作し、10段階の中から好みの温度にセットしてください。(低約35℃～高約80℃の間で選ぶことができます。)
- ③冬期水温の低い時など、湯温調節ランプを「高」の位置に操作されても熱い湯が出ないことがあります。そのような時には給湯栓を少し絞ってお使い下さい。



③消火・出湯停止(お湯の止め方)

- ①給湯栓を閉じますと、お湯が止まり、自動的にバーナも消火します。(この際、メインコントローラの燃焼ランプが消灯し、消火が確認されます。)
- ②ご使用後はメインコントローラの運転スイッチを押して「切」にしてください。(すべてのランプが消灯します。)
- ③長期器具を使用しない場合は、ガス元栓を閉じてください。



使用手順③

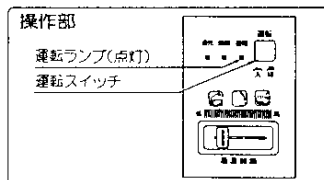
〈ご注意〉

- ①使いはじめは、給湯配管内にたまった水が流れ出すまで、お湯は出てきません。(約30秒待つてもお湯が出てこないときは、給湯栓をいったん閉じて、メインコントローラの運転スイッチを「切」にし、再び運転スイッチを「入」にして、給湯栓を開いてください。)
- ②高温設定したときには水の中の空気が分離して気泡となり、お湯が白くなる場合がありますが空気ですので何ら心配はありません。
- ③水圧が下がった時など能力が十分でないことがあります。そのような時には、湯温調節スイッチを押して湯温を高温側に設定し湯水混合栓で水と混ぜて適温にしてお使いください。
- ④器具に不具合が生じた時には、燃焼ランプが点滅し、点滅状態により不具合の原因を知らせます。(詳しくは20ページの「異常報知(OKモニター)」について)の項をごらんください。
- ⑤停電時や電源プラグを抜かれた場合、再通電しますとコントローラの設定温度は約42℃になりますので、再度好みの温度に調節しなおしてください。

使用方法 〈本体操作タイプをお使いのとき〉

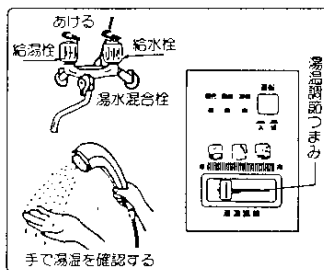
①点火・出湯(お湯の出し方)

- ①運転スイッチを押して「入」にしてください。運転ランプ(緑)が点灯します。
- ②給湯栓を開けますと、自動的にバーナに着火し、燃焼ランプ(赤)が点灯しお湯が出ます。



②湯温調節のしかた

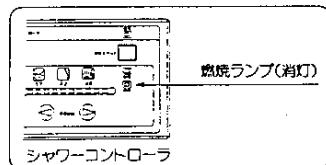
- ①湯温調節つまみを操作して、好みの湯温にセットしてお使いください。また、湯温調節つまみを高温側にセットして湯水混合栓で水と混ぜて適温にしても使えます。
- ②使いはじめは、給湯配管内の水が流れるまで、お湯は出ません。約30秒待つてもお湯が出てこないときは給湯栓をいったんしめ、再度、給湯栓をあけてください。



使用手順⑥

③消火・出湯停止(お湯の止め方)

- ①給湯栓を閉じますと、お湯が止まり、自動的にバーナも消火します。
(この際、シャワーコントローラ・メインコントローラ及び器具本体の燃焼ランプが消灯します。)



- ②ご使用後は、メインコントローラの運転スイッチを押して「切」にしてください。
(すべてのランプが消灯します。)
- ③お出かけやおやすみの際など、長期間器具を使用しない場合は、ガス元栓を閉じてください。

〈ご注意〉

- 停電時や電源プラグを抜かれた場合、再通電しますとコントローラの設定温度は約42℃になりますので、再度お好みの温度に調節しなおしてください。

断水時・停電時の処置

断水時の処置

- ①断水のときは、給湯栓を閉じて電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ②再使用するときは、必ず給湯栓から水の出るのを確かめてから6～10ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

停電時の処置

- ①使用中万一同電した場合は、給湯栓を閉じてください。
- ②再通電したときは、8～12ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

冬期の凍結による破損予防について

冬期には、寒冷地以外でも急な寒波のため器具内の水が凍結し、器具を破損することがあります。器具が凍結し、破損すると高額な修理費用がかかりますので、次のような処置をして器具の凍結による破損を予防してください。

冬期の凍結による破損予防について②

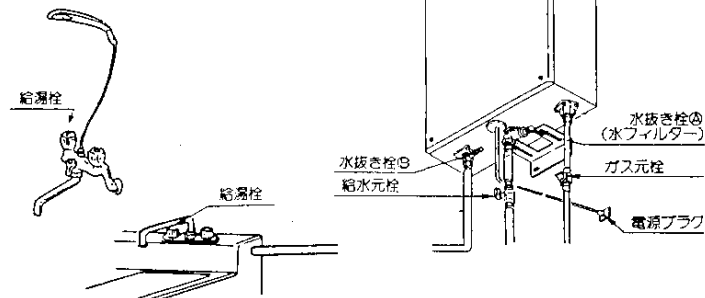
器具内の水を抜く方法

〈入居前や長期不在の場合〉

- 給水配管、給湯配管の凍結予防はできませんが、凍結から器具を守るには、最も良い方法です。

〈水抜きの手順〉

- ①ガス元栓を閉じてください。
- ②電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ③給水元栓を閉じてください。
- ④すべての給湯栓を開いてください。
- ⑤水抜き栓⑨、水抜き栓⑩を左に回して外してください。
- ⑥電源プラグを再度コンセントに差し込み約10秒後にコンセントから抜いてください。(バイパス通路の水抜きのため)



〈ご注意〉

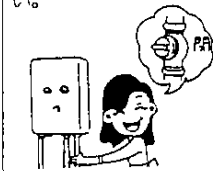
- ①給湯栓は、次にお使いのときまで開いたままにし、水抜き栓⑨および水抜き栓⑩は、外しだまにしておいてください。
- ②再び、使用されるときは、水抜き栓⑨および水抜き栓⑩を閉じ、給水元栓を開いて、給湯栓から水が流れるのを確認してください。このとき水抜き栓⑨水抜き栓⑩から水漏れがないかを確認してください。
(電源プラグをコンセントにしっかり差し込み、8～12ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。)

冬の凍結による破損予防について③

給湯栓から水を出し放しにする方法

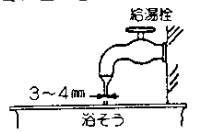
- 器具本体だけでなく、給水管、給湯配管の凍結予防にもなります。

ガス元栓を閉じてください。



メインコントローラ又は、器具本体の運転スイッチを「切」にしてください。

給湯栓より少量の水を流してください。1分間に牛乳ビン1本(200cc)以上。(寒い日は多い目に。)



〈ご注意〉

- 給湯栓からの流量が不安定なことがありますので、念のため30分くらい後に、もう一度流量を確認してください。(少なすぎると凍結予防にはなりません。)

凍結したときには

- ① 凍結したときには、器具に不具合が生じる場合があります。凍結がとけたあと、水漏れや、作動に不具合がないことを、確認してご使用ください。
- ② 器具や配管が破損すると、高額な修理費用がかかります。(有料)

長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、ガス元栓、給水元栓を閉じ必ず器具内の水を抜いてください。(詳しくは14ページの「器具内の水を抜く方法」の項にしたがってください)

日常の点検・手入れ

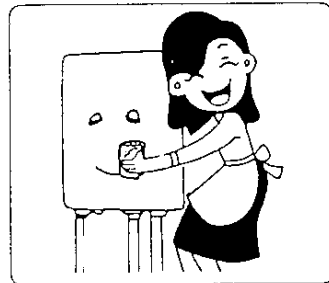
- ① 器具を安全に長くご使用いただくために日常の点検、手入れを必ず行ってください。
- ② 日常の点検・手入れの際には必ずガスの元栓を閉じ電源プラグをコンセントから抜いて、器具が十分冷えてから行ってください。
- ③ 前板などは、外さないでください。

日常の点検

- ① 器具の上や周囲に燃えやすいものを置いていませんか?
- ② ガス配管部からガス漏れしていませんか?
- ③ 給水、給湯配管から水漏れしていませんか?
- ④ 給排気トップ(排気口)をふさいでいませんか?
(給排気トップ(排気口)は2ページの「各部の名称」の項をごらんください。)
- ⑤ 器具のご使用に支障がなくても、2~3年に1回くらいバーナや各部の作動が「正常」かどうか定期的に点検をするのが、安全に長期間使用いただくための「ひけつ」です。点検のご依頼は、お買求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

日常のお手入れ

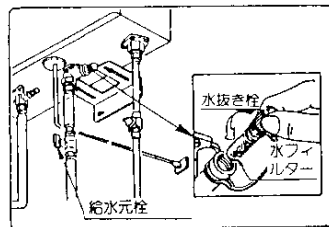
- ① 前板・後板のそうじ
 - 器具の前板・後板の汚れはやわらかい布、またはスポンジに台所用中性洗剤を付けてふき取ってください。(洗剤が残らないようご注意ください。)



〈ご注意〉

- 金属たわし・あがき粉・シンナーやベンジンなどは使用しないでください。(器具本体の色が変色したり、印刷表示物の文字が消えます。)

- ② 水フィルターのそうじ
 - 水フィルターに配管内のゴミ、砂がたまりますとお湯が出にくくなります。その場合は給水元栓を閉じ、水抜き栓を左に回して外し、水フィルターを引き出して、そうじしてください。



故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不具合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

次のような場合は故障ではありません

①最低作動水量について

この器具は、器具内の通水量が最低作動水量(2.5ℓ/分)以下になったときは点火しませんので、故障とお間違いないように、ご注意ください。

②同時給湯について

2箇所同時にお湯を使用するとき、給湯配管の方法、給湯栓の開きぐあいによって、それぞれの給湯栓のお湯の量が異なることがあります。特に器具から遠い場所、高い位置の給湯栓では、お湯の出ない場合もあります。また、シャワーをご使用中に、他の給湯栓を同時使用しますと湯温や湯量が変動しますので、ご注意ください。

③給排気トッパからの白い煙について

冬期(外気温が低いとき)には、排気ガス中の水分が水蒸気に変わるために給排気トッパから白い煙が出ることがあります。

これは、人のほく息が白くなるのと同じ現象ですので、何ら心配はありません。

④出湯停止後のファンの回転について

再使用時の点火をより早くするためFF型：約7分間、FF-W型：約1分間は回転しています。これは異常ではありません。

⑤ウォーターハンマー(給湯栓を急にとめると、ゴツンと音がすること)について

給水パイプに逆止弁をとりつけると、音がする場合がありますが水が急にとまるため発生する音で異常ではありません。

⑥電源投入後約5秒以内に運転スイッチを操作すると「燃焼でないのに燃焼ランプが点灯したり、燃焼状態なのに逆にランプが消灯したりすることがある」ので5秒以内は操作しないでください。誤作動したときは一旦電源を切って再投入してください。

故障・異常の見分け方と処置方法②

故障または異常例 (注意) A又はBの状態になると器具本体・メインコントロールおよびシャワーコントロールの燃焼ランプが点滅をはじめます。

異常現象 異常原因	A	B	C	D	E	F	処置方法	参照ページ
	着火しにくい 給湯栓を開いても着火しない	使用中に消火した 消火しやすい	高温の湯がない	使用中湯温が極端に変動する	異常な音をたてて燃焼する	過圧逃し弁から常時水がでる		
ガス元栓の開きが不十分	○		○				ガス元栓を全開にする	8
配管内に空気が残っている	○						点火操作を繰り返す	8
給水元栓の開きが不十分	○	○		○			給水元栓を全開にする	8
水圧が適切でない	低い	○	○	○			点検・修理を依頼する	—
	高い				○			—
水フィルターにごみがつまっている	○	○		○			つまり除去または点検・修理を依頼する	17
給湯栓の開きが不十分	○	○		○			給湯栓を十分に開く	8
電源プラグの差し込み忘れ	○						電源プラグを差し込む	8
点火装置の故障	○						点検・修理を依頼する	—
水温調節の故障	○		○	○			点検・修理を依頼する	—
安全装置が作動	○	○					点検・修理を依頼する	—
バーナの逆火					○		点検・修理を依頼する	—

原因や処置がわからないときは、ただちにお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

(冬期には水抜き操作を行ってください。詳しくは14ページの「湯沸器内の水を) 抜く方法」の項にしたがってください。)

故障・異常の見分け方と処置方法 ③

安全装置の種類とその働き

① 立消え安全装置

万一使用中にバーナの炎が消えたときは、この安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

② 過熱防止装置

使用中器具内の温度が異常に高くなったときは、この安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

③ 空だき安全装置

熱交換器が異常な温度上昇をしたときはこの安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

④ 過昇温安全装置

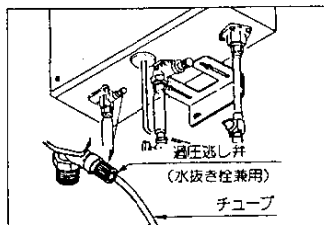
この安全装置が作動しても故障ではありません。使用の際に、湯量を極端に絞ったり、水圧が低いときに湯温が過度に上昇することがあるため、過昇温防止装置を設けてあります。湯温が約95℃以上になるとこの装置が働いて、自動的に消火します。

⑤ 過圧防止安全装置

器具の使用停止直後に熱交換器の余熱により、熱交換器内の圧力が高くなり、過圧逃し弁が作動して水がポタポタ出ることがありますが、器具の故障ではありません。このような場合には床面をぬらしますので、過圧逃し弁に付いているチューブにより、排水処理をしてください。付属チューブで排水処理ができない場合はお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

〈ご注意〉

●空だき安全装置が作動する際には、器具の損傷を防ぐため過圧防止安全装置(過圧逃し弁)が作動し高温の蒸気が噴出しますので、ご注意ください。



⑥ 漏電安全装置

万一、器具の電気回路から漏電したときに、この安全装置が作動して、漏電による器具の電気部品が故障することを防ぎます。

故障・異常の見分け方と処置方法 ④

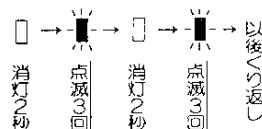
■異常報知(OKモニター)について

- 器具に不具合が生じた時、器具本体・メインコントローラ(リモコンタイプ付 属部品) およびシャワーコントローラ(別売部品)の燃焼ランプの点滅によって、不具合の原因を知らせる異常報知(OKモニター)機能が付いています。

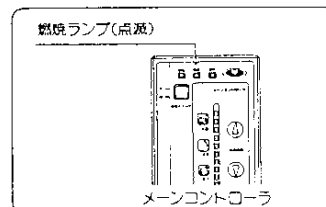
〈活用の仕方〉

- ① 燃焼ランプの点滅回数をチェックします。(点滅回数とは、消灯2秒間と次の消灯2秒間の間の連続した点滅の回数を指します)
- ② 次に、チェックした点滅回数と一致する内容を下表よりさがしてください。

(例)



このような点滅をくり返している場合、点滅数は3回なので、右表(配線図レベルのOKモニターについての表示)で見ると、No3の「ハイリミット SW 又は温度ヒューズ作動」が原因であることが判ります。



(器具本体・シャワーコントローラも同様)

NO.	燃焼ランプの点滅周期	内 容
1	●●●●●●●● 点滅数 1	バーナ不着火
2	●●●●●●●● 点滅数 2	バーナ失火
3	●●●●●●●● 点滅数 3	ハイリミット SW 又は 温度ヒューズ作動
4	●●●●●●●● 点滅数 5	給湯サーミスタ異常
5	●●●●●●●● 点滅数 6	送風機異常
6	●●●●●●●● 点滅数 7	湯温が異常高温
7	●●●●●●●● 点滅数 8	バーコン(電 装基板)異常

仕様一覧表

項目	種別	FF型	33-555型	FF/W型	33-556型
			33-575型		33-576型
設置方式	屋内設置型				
外形寸法(mm)	高さ550×幅400×奥行150				
重量(kg)	19		19		
排気温度	260℃以下				
給排気筒	給気φ90、排気φ80(最大延長7m4曲)		—		
接続	ガス	13A・LP用…15A(PT1/2)、6C用…20A(R3/4)			
	給水	15A(R1/2)			
	給湯	15A(R1/2)			
	電気	AC100V			
最大ガス消費量(Kcal/h)	都市ガス6C	都市ガス13A	LPガス		
	30,000	30,000	2.5(kg/h)		
消費電力(W)	66(別売凍結予防ヒータ取付時76)				
点火方式	連続スパーク点火、ダイレクト着火				
必要使用水圧(kgf/cm ²)	0.8				
出湯量(水温+25℃)(ℓ/分)	16(湯水混合水栓で混合したとき)				
最低作動水量(ℓ/分)	2.5(作動水圧0.1kg/cm ²)				
安全装置	立消え安全装置	過昇温安全装置			
	過熱防止装置	過圧防止安全装置			
	空だき安全装置	漏電しゃ断器			

別売部品のご紹介

- シャワーコントローラ……………38-554 ● 給排気トップ(軒下用 350型)……95-557
- 配管カバー450型(長さ450mm)・38-581 ● 給排気トップ(ベントトップ)……95-527
- 配管カバー200型(長さ200mm)・38-582 ● 給排気トップ……………95-558
- FF型 ● 排気筒材料……………95-570~577
- 給排気トップ(250型)……………95-511 ● 給気筒材料……………95-588~592
- 給排気トップ(350型)……………95-512 FF-W型
- 給排気トップ(軒下用 250型)・95-513 ● 給排気トップ……………95-553
- 給排気トップ(軒下用 350型)・95-514 ● 給排気トップ……………95-554
- 給排気トップ(軒下用 250型)・95-556 ● ヒーター(S)……………433-5550600

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

① 17~20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

② 確認のうえ、それでも不具合がある場合、あるいはご不明な点がある場合ご自分で修理なさらないで買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社へご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

- ① 品名……ガス瞬間湯沸器
- ② 大阪ガス商品コード……湯沸器の正面右下に貼付してあります。

(例)

(4)33-555(U)

大阪ガス株式会社

③ 現象……できるだけ詳しく

④ 道順……できるだけ詳しく

転居される場合

● ガスの種類には、都市ガスとLPガスとがあり都市ガスにはガスグループの区分があります。ガスの種類、ガスグループの区分が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類、ガスグループの区分を確認のうえ、買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証書について

- この器具には保証書がついています。
- 保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
- 保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

補修用性能部品の最低保有期間について

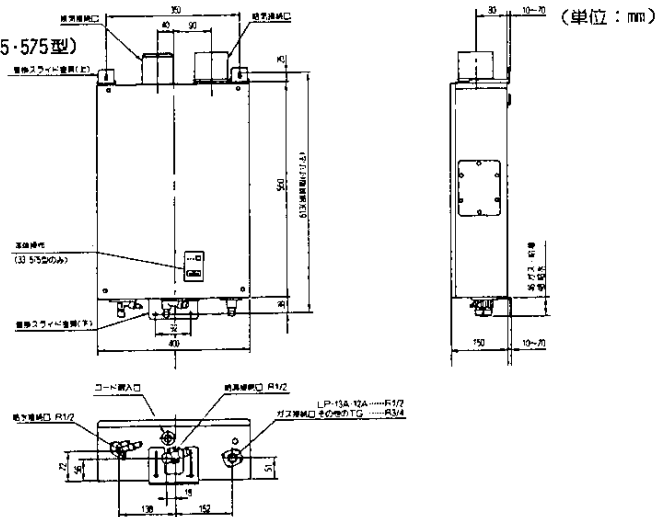
① 無料修理期間経過後の修理については、買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理します。

② 補修用性能部品の最低保有期間は製造切後10年です。

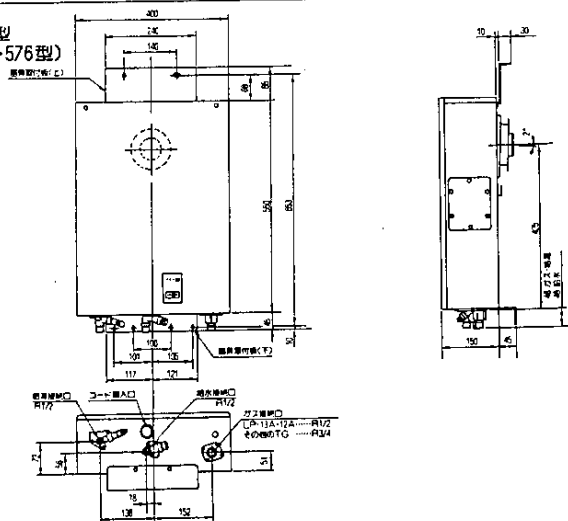
*性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

寸法図

FF型
(33-555・575型)

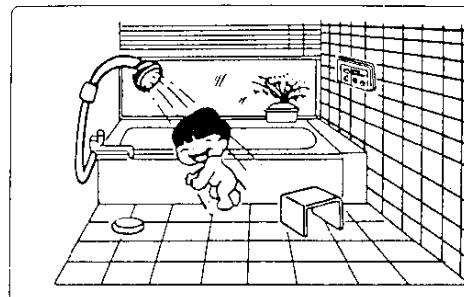


FF-W型
(33-556・576型)



メモ

本製品と快適なくらしのために



おねがい

ガスくさいときはお部屋の元栓を閉じ、扉を全開にしてから（火気に注意して）お買い求めのサービスショップ、またはもよりの大阪ガス安社にご連絡ください。

特長

1. コンパクトな省スペースタイプ
2. 出湯温度はいつも一定
電子コントロール方式で出湯温度を検知して自動的にガス量を制御しますから、季節により水温が変化しても出湯温度は変わりません。
3. 簡単操作の湯温設定
湯温調節位置を合わせるだけで好みの湯温が、しかも操作は簡単にできます。
4. ガス、お湯の無駄が少ない省エネルギータイプです。
 - 出湯能力は16号から3号まで自動的に調節しますから使用用途に応じて適温、適量の湯が得られます。（ただし出湯能力の範囲内で）
 - 給湯栓を開くだけで、メインバーナーに着火するダイレクト着火方式ですから使用しない時は、たね火もなく省エネ設計です。
5. 異常報知（OKモニター）付
万一、湯沸器の故障が起きても、原因がひと目でわかる異常報知（OKモニター）が付いているので安心です。